SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL　平成 27 年度文部科学省指定　スーパーグローバルハイスクール

SGH 通信

H29. No.11

高知県立高知西高等学校
〒780-8052　高知県高知市鴨部 2 丁目 5 番 70 号
TEL　088-844-1221／FAX　088-844-4823
URL:http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/

グローバル探究Ⅱ（２年）の取組

第１４回大学教員への相談会

９月 15 日のグローバル探究Ⅱでは、世界の様々な分野で研究されている大学の先生方８名に来ていただき、生徒がそれぞれのグループ探究の内容について、疑問点や探究の方向性などを相談しました。先生方の専門分野に対して希望を募り、１班 12 分で 50 グループがそれぞれの質問をしていました。

〇参加いただいた先生方

高知大学人文社会科学部　岩佐和幸先生 高橋俊先生　佐野健太郎先生
高知大学地域協働学部　中澤純治先生　高知大学教育学部　森田美佐先生
高知大学地域連携センター　大崎優先生
高知工科大学 経済・マネジメント学群　中村直人先生　上條良夫先生

【生徒の質問】

・水の確保で、特にエチオピアを中心として調べていますが、都市の開発はできたものの田舎との格差が大きいという結果がでてきました。それを解決するための方法の手がかりは何かありますか。

・日本が女性の社会進出を問題視し始めた原因と理由は何ですか。家庭を持っている女性が安心して仕事ができるようになるためにはどうするべきですか。他国の現状の中で見習うべきものはありますか。

・灌漑農業をする時に、塩害にならないように気をつけるところはありますか。アフリカは世界の 60％にあたる未開墾地があると聞きましたが、それは砂漠地帯が多いからですか。また、この未開墾地を利用してアフリカの飢餓問題や砂漠化問題の改善につなげる方法はありますか。

・漁獲量が減少していることについて、漁獲のルールや漁獲量の上限を決めることが必要であると考えましたが、具体的にどれぐらいの数値を定めるのが妥当であると考えますか。

・大川村に一次産業を使い人を呼び込む方法は何かありますか。例えば、はちきん地鶏、大川黒牛を使った六次産業化などを考えています。ただウシは飼育に時間がかかり大量生産は難しいのではないかと思っています。

・子ども食堂はボランティアだけでこれからやっていけるのでしょうか。子ども食堂の改善策や家庭内に隠されている貧困を見つけ出すにはどうしたらよいですか。

大学の先生にした質問に対して、逆に先生方から質問をされる様子もしばしば見られ、ただ詳しい知識を教えていただくだけでなく、自分たちに何が足りなかったのかに気付かされる場面も見られました。

第１６回「中間発表会」に向けて

10 月 13 日のグローバル探究Ⅱでは、探究活動の中間発表会に向けて、口頭発表の仕方、発表資料の作り方、質疑への対応や原稿作り、リハーサルの意義などを学びました。

自分たちの主張や提案を分かり易く、理論的に相手に伝えるにはどうすべきかについて、以下の手順が示されました。

① 発表日までの計画を立てる。

② 発表内容を簡単にまとめ、レイアウトを考え、スライドを作成する。

③ 発表原稿を作り、時間を計りリハーサルを行う。

自分たちが伝えたいことを伝えることは、たくさんの準備が必要だということを学びました。

第１７回「グローバル探究Ⅱ中間発表会」

10 月 27 日のグローバル探究Ⅱでは、５月中旬から進めてきた探究活動の進捗状況を、中間発表会という形で、各クラスで口頭発表を行いました。第一回目の発表会に参加していただいた大学の先生を中心に、8 名の先生方に発表を聞いていただきアドバイスをいただきました。

〇参加いただいた先生方

鳴門教育大学　近森憲助先生　高知工科大学 経済・マネジメント学群　中村直人先生

高知大学人文社会科学部　岩佐和幸先生 高橋俊先生　佐野健太郎先生

高知大学地域協働学部　石筒覚先生　中澤純治先生　高知大学教育学部　森田美佐先生

各グループは、この日のために、色や文字の大きさ、探究した内容のまとめ方などを工夫し、スライドと発表原稿を直前まで手直ししながら準備をしていました。

【発表を終えた生徒の感想】

・達成感でいっぱいです。前回は中途半場な発表で質疑応答にも答えられず、何を言いたいのか分からないと言われてしまいましたが、今回は質問に答えることができました。プレゼンが最後までで き、高評価をもらいました。放課後残ったり、朝早く来たり、家で調べたりなど、努力した結果、よいプレゼンができたと思います。これからの活動も、班員と共に頑張っていきたいです。

・全てのチームの発表を聞いて、目的が似ているチームもあったけど、それぞれのチームが違う形で伝えることができていたので面白かったです。また、先生に新たにアドバイスをいただくことによってさらに深めていくことがこれからできると思うので、もっと協力し合っていいものをつくっていきたいと思います。少しでも班の力になれるように頑張ります。

・今日の中間発表では、他の班と比べて自分たちの班は問題やそれに対しての解決策がはっきりとはしてないなと思いました。また、誰が見てもすぐ理解できるような内容発表までにはいってなかったなと思いました。質問されることにもきちんとした答えを返せず、調べきれてなかったと思いました。次の時間には改善すべき所をもっと改善していきたいと思いました。

【大学の先生の感想】

高知大学社会人文学部　岩佐和幸先生

今年 6 月末の一回目の生徒の発表から考えると、内容の深まりだけでなく、生徒たちの堂々とした発表の姿に成長を感じました。内容も、一般論から具体的なテーマに絞り込んだチームが大半でしたので、問題状況を明確にできていたように感じました。電話やメール等で専門家や関係者にヒアリングをかけて、必要な情報を入手していましたので、その行動力にも感心しました。

鳴門教育大学　近森憲助先生

論理が飛躍する事例が数例みられましたが、その場合には改善策を示唆しました。それにしても、みなさん、よくがんばっています。いずれの発表も、最終成果がとても楽しみなものばかりでした。リサーチペーパ―の作成も頑張ってください。

高知大学教育学部　森田知佐先生

自分たちが 100%納得いかなくても”とりあえず”出している結論ですが・・・というような印象を受けた班もありました。どんな結論であっても、自分たちでやったところの成果をフルに出して検討したんだ！（途中の段階であってもいい）これが自分たちの今できる最善の結論なんだ！と胸を張ってください。ぜひ自信をもって発表して下さい。

【クラスの先生の感想】

練習は十分にできたとは言えなかったですが、一回目の発表と比べて、生徒は本当によく努力し準備しまとめていました。多くはないですが、グループで協力する意義を理解してきた班もあります。また、講師の先生方の助言から、自分たちの考えのつかない物事どうしの深い関わりを知り、初めて探究を行っていく意味が分かった気がしました。

「グローバル・リンク・シンガポール 2017」 海外でも発表！！ ７月21～25日

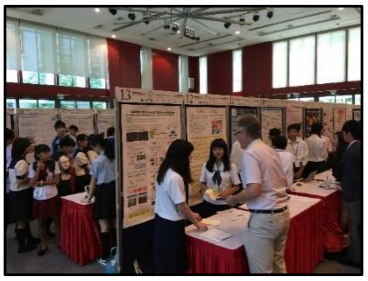
「グローバル・リンク・シンガポール 2017」は、７月２１日（金）～２５日（火）の日程で、シンガポール国立大学で開かれた大会で、今年で４回目の開催となる大会です。アジア太平洋を中心に、日本、シンガポール、タイ、フィリピン、ミャンマー、ベトナム、インドネシアの７か国から 46 校、約 200 名の中高生が参加し、各学校で探究してきた内容を英語で発表したり、交流したりするプログラムです。本校からは初めて３年生２グループ（２名×２グループ）が参加しました。

〇参加者

年	組	氏名	ポスターセンッションテーマ
3	7	安養寺　珠梨	The Crises in Local and Global Forests and Ideas for Solution.
3	7	米川　菜乃華	
3	7	伊藤　綾乃	Why Not Fair Trade?
3	7	中井　花	

〇内容

７月２２日早朝、現地到着。会場となったシンガポール国立大学は「教育の質アジア第１位」の大学で、現地の大学院生がキャンパスを案内してくれました。緑に囲まれた美しい校舎の中で、大学生たちが協働的に勉学に励む姿を目にして、生徒たちにとっては、大きな刺激となったようでした。



２３日、発表本番。約４０チームが同一会場でポスターセッションを行いました。互いの発表ブースへ足を運び、質問をぶつけ合い、会場は熱気に包まれました。西高の２チームも、様々な国の高校生から難しい質問を投げかけられていましたが、しっかりと誠意をもって答えており、プレゼンの最後には聴衆とのディスカッションにまで発展していました。VERY GOOD JOB ！

その後、各国の代表である１３組の口頭発表によるプレゼンテーションがありました。英語の質の高さはもとより、リサーチ内容の深さと洗練された発表内容に終始圧倒されました。同年代である各国代表のレベルの高さに触れたこの経験は、西高生自身の大きな財産になったことと思います。

この３日間にわたり、親睦を深めるための工夫も随所にみられました。特に、毎夕食時には大食堂で参加者全員が一同に会し、夕食のみならず様々な交流イベントがありました。参加校それぞれの自校紹介に始まり、ビジネスシーンを想定した名刺交換からの「ネットワーキング・イベント」や様々なゲーム、さらには各国からの伝統芸能も披露されました。

２４日最終日、閉会式を終え、世界的に有名な研究所が数多く集まるビル群「バイオポリス」、「フュージョンポリス」を訪れ、技術革新の現場に触れました。また、日本ではまだ目にしたこともない、「ＭＯＮＯ」という会員制の協働オフィスビルの内部を見学することもできました。ビジネスの世界がこれからどのように変わり、働き方がどのように変わるのかを示唆する大変興味深い見学ツアーを体験することができました。

総括すると、このシンガポールへの旅は、タイトなスケジュールながらも、生徒たちにとって数多くの類稀（たぐいまれ）な学習機会を提供するダイナミックな研修旅行であったと思います。多様な意見や視点、さらには価値観を交流し合い、国際舞台で再会する可能性もある新たな友も得ることもでき、貴重な経験となりました。１、２年生の皆さんも来年、シンガポール国立大学で自分たちの探究テーマを発表してみてはどうでしょう。

【生徒の感想から】

- **国際舞台で英語で発表するのはとても緊張しましたが、様々な国のレベルの高い生徒に刺激され、更なる高みを目指す良い機会になりました。チャレンジして良かったです。**
- **津波サミットに参加していた人に再会してびっくり。交流会も盛り上がった。国際舞台でまた会いたい！**
- **他の国の発表者と比較して、日本人は質問への対応力に欠けていると感じました。私自身、聞きなれていないアジア圏の英語に戸惑い、うまく答えることができませんでした。そして、今回参加して強く感じたことは、たくさんのプレゼンターがいる中で「いかに聴衆の興味をひくことができるか」ということです。受賞したのは、発表の工夫により自らのプレゼンを一人一人に印象付けることのできた発表者でした。この大会に参加して感じた刺激を忘れずに、自身の向上に繋げていきたいです。**

「フェアトレード」について香南中学校３年生と交流授業に参加 ９月６日

９月６日（水）14：35～15：25、南国市立香南中学校３年生の教室で行われた交流授業に、本校の３年生３名が参加しました。これは、７月 11 日にオレンジホールで行われました「高知西高校 SGH 国際シンポジウム」を見に来てくださった香南中学校の先生が、フェアトレードについて発表したグループに対し、「ぜひ中学生にも聞かせたい、発表してほしい」との依頼があり、実現しました。中学生もフェアトレードについて学習してきており、当日は、高校生の発表後、まずペアで内容を振り返り、自分たちの意見を出し合った後、高校生に向けて意見や感想、質問などを英語で伝えました。短い時間でしたが、とてもよい交流の時間となりました。

グローバル探究Ⅰ（1 年）の取組

第１９回「地域創生モデル案」構想発表会　１１月１日（水）

作成した探究内容フローチャートをもとに、探究テーマに関する構想発表用プレゼンシートを作成し、担当教員にプレゼンテーションを行いました。担当教員からは「探究テーマ設定が高知県の課題解決につながっているか」や、「設定された探究テーマについての高知県の現状が詳しく調べられているか」などの観点からアドバイスが行われました。

【構想発表のようす】

【学生 TA からのアドバイス】

【生徒の感想から】

構想発表について、私が最も印象に残っていることは、発表中の資料にデータ(数値)の事例を書き込むということです。そうすれば聞く側の人もどうしてなのかといった疑問が浮かぶことがなくなるからです。数値を書いて、詳しい情報をしっかりと掲示して、聞いてくれる人にわかりやすくできるように、しっかりと書き込むことを次に生かせるように頑張りたいです。

今回の構想発表会で最も印象に残っていることは、高知と同じような特徴を持った県と比較してみたら良いとアドバイスされたことです。言われるまでは他県と比べて劣っている所を見つけることしかしていなかったですが、同じような特徴を持っていて、加工ができている所と比較したらヒントを得ることができることに気づけました。高知の野菜と同じような生産量の県と比較してみます。